

書評

石川悠加 編

JJN スペシャル No. 83

これからの人工呼吸—NPPV のすべて

北海道大学大学院保健科学研究院機能回復学分野

宮 本 顕 二

本書の編集・執筆者である石川悠加先生は我が国における非侵襲的人工呼吸(NPPV)療法の第一人者です。先生は八雲病院に赴任後、神経筋疾患の小児患者に対するNPPV療法を初めて試みしました。当時はNPPV療法が今日のように認知されておらず大変苦労されたと聞いています。八雲病院の成功から日本におけるNPPVの普及に努めた結果、今ではNPPV療法があたりまえのように実施され、多くの患者さんが社会復帰できるようになりました。この長年の実績から「NPPV＝八雲の石川」とまでいわれるようになりました。

石川先生はNPPVに関するテキストを数多く執筆しています。そのほとんどは私の手元にあります。どの本を手にとってもわかりやすくすばらしい本ばかりです。それは、著者自身が我が国のNPPV療法の先駆者であり、かつ現在もNPPV療法に深く携わり続けているからです。長年の実践に基づいた先生の文章はわかりやすいだけでなく、地に足がつい

た重みと説得力があります。

さて、今回刊行された本書は図表とイラストをふんだんに取り入れたNPPVの入門書で実践書です。NPPVの基礎から、導入、管理、看護、関連する職種の分担などについて楽しく学ぶことが出来ます。ほぼすべての項に掲載されているイラストをみるだけでNPPVのポイントがつかめます。また、医療の現場で長年培ったNPPVに関するノウハウを惜しみなく提供されており、NPPVを実施するにあたってのコツが随所に書かれています。たとえば、体位交換のときの事故防止のコツとして蛇管の固定の仕方がイラストでわかりやすく説明されています。神経筋疾患患者に対するNPPV療法ではちょっとした油断が患者の死に結びつきます。それを防ぐための方策がほかにもたくさん紹介されています。本書はNPPV療法に関連した医療事故の防止にも大いに役立つものと確信しています。

この本の特徴の一つにその執筆陣があります。チーム医療なくし

てNPPVは成功しません。そのため、本書ではNPPVに直接関わるすべての職種のかたが執筆者として参加しています。本書を読み進めると、NPPVをこれから始めようとするひとにとって、どのような医療チームを作るべきか自然に理解できます。また、執筆者一覧の項にモデルになった患者さんの集合写真が掲載されています。そのため、随所に掲載された患者さん自身の写真には「目隠し」はありません。私がこの本のページをめくった時に、いつもの医学書を読んだ時とは違ったなにか暖かい雰囲気を感じました。それは、患者さん自身の生き生きとした写真が掲載されているためからです。本書のイラストも八雲病院を退院しイラストレータになった患者さん自身が書いたものです。

人工呼吸器の扱いは苦手と感じてはじめてから食わず嫌いの医師や看護師が少なくありません。しかし、本書を読むことでそのような苦手意識はなくなるはずです。これまでのどの解説書よりもわかりやすく、実践のツボを押さえている本書は人工呼吸器を扱うすべての医療職種のかたに最適の本であり、是非お勧めしたいと思います。

〔A4変 頁264 2008年 定価2,730円(本体2,600円+税5%) 医学書院刊〕